

五小の風景 No. 3

五日市小学校長 国政 直文

学び合える学校に

6月もあとわずかとなりました。水泳指導も来週から始まり、いよいよ夏本番となります。前期前半もあと3週間となります。4月からの約3ヶ月半の間にどんな力が自分についたのか（特に、あいさつ・そうじ・聞くこと・話すこと）を省みてほしいと思います。6月始めから各クラスの授業の様子を参観しています。参観して気づいたことは、どのクラスも授業開始のチャイムで授業が開始されているということです。また、ほとんどのクラスで、その日の授業でどんなことを学習するのかという「めあて」をきちんと示して授業に臨んでいました。ただ、「聞くこと」「話すこと」に関しては、クラス間での差が出てきていると感じました。

「聞くこと」「話すこと」の力がついている学級で共通していることは、座ったままでの発言をしていない、指名されたらはっきりと『はい』と返事をして起立し、『～です』『～ます』と最後までしっかりと言い切っている、教師が学級の子ども一人一人の顔をしっかりと見て話しているということでした。

また、教師の質問に答える時、よく『ハイ、ハイ、ハイ』と多くの子どもが一斉に声を上げることがあります。でも、1年生のあるクラスでは、ほとんど全員が手を挙げていてもかかわらず、全員静かに質問に対して挙手していました。よく徹底されているなど感心しました。多くの子どもが一斉に手を挙げて『ハイ、ハイ』と言うと活気がある様に思えますが、活気と騒音は違います。そのあたりを勘違いすることなく、落ち着いた雰囲気での授業を心がけられていることはとてもいいことだと思いました。

「聞くこと」「話すこと」という力をつけるには、地道な日々の繰り返しの指導及び授業内容の工夫が必要です。日々の実践を大事にする必要があります。

私が若い頃、ある校長先生に次のような話をさせていただきました。

『先生がしっかりと話を聞いてくれない』『えこひいきする』『後でね、と言っても絶対後でやってくれない』『いつもだったら授業が伸びて休み時間がつぶれる』『宿題がその日の気分で、多かたり少なかたりする』このような不満が子ども達の中に出始め、それが限度を越えると、子ども達は反旗をひるがえして、担任の制止も聞かず暴れ出したり、物を壊したり、担任に暴力をふるったりしてコントロールがきかなくなり、いわゆる学級崩壊になる。そうならないために、今から言う10項目を常に自分の実践と照らし合わせて、もし当てはまるような項目があればすぐに改善するように」という話でした。その10項目とは、以下のようなことです。

- ①教室が整理整頓されておらず乱雑である。
- ②授業開始時刻、授業終了時刻がルーズである。
- ③しっかりと公平に叱れない、またしっかりと公平にほめられない。
- ④週の指導計画がいい加減で、説明中心の単調な授業が淡々と続く。
- ⑤保護者への連絡が後手に回る。
- ⑥子ども主体の教育と称した調べ学習・自由練習
・新聞づくりなど、立ち歩きを助長する授業が多い。
- ⑦学級ルールが不徹底である。
- ⑧教師が椅子に座っている授業が多い。
- ⑨授業中なのに教師が子どものお友だちになってしまっている。
- ⑩朝の会・帰りの会が異常に長い。

私は、常にこの10項目を意識しながら実践してきました。この10項目は時代が変わっても通用するものだと確信しています。

私達教員は、常に謙虚な気持ちで学び合い、常に目の前の子ども達に目を向け、地に足がついた実践を行っていきたいと考えています。



